

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

1月最後の日、かつては年始の挨拶回りにうかがえなかった人を訪問した晦日(みそか)正月。1本の木の幹に12本の枝があり、52輪の美しい花が咲

き、それぞれの花に7個の花びら、花びらには24本の筋が付いている。この木は? 「なぞなぞ」の答えは「一年」。一年はひと月や1週間、さらに1日、1時間と細かく分かれる。1本の木が枝、花、たくさんの花びらを付けているのと、思えば似ていると長崎新聞のコラム「水や空」が紹介。

刻み続ける時間を留めることができないならば、「あっという間に1カ月が過ぎた」と思わずに、これから巡る時間に夢や期待を抱かせてはどうだろうか。地域に外国からの多く

のお客様が訪れる事を危惧する声が聞えてくる。画家ゴッホの言葉に「美しい景色を探すな。景色の中に美を見つげよ」がある。見慣れた景色に何も感じる事がなくても、川端や道端に咲く小花を見つ

めてから、あらためて景色全体を見直すと印象が変わると。米国の思想家エマーソンが残した言葉「美しいものを求めて世界中を旅するが、私たち自身が美しさを携えていなければ、それは見つからない」。

楽しい旅の実現には観光客と住民が互いに敬う心を持つことが何より大事だと。将来を委ねる子供達へ教育支援は重要課題だと認識し続けることが求められている。

白馬で宿泊者が宿泊している。楽しい旅の実現には観光客と住民が互いに敬う心を持つことが何より大事だと。将来を委ねる子供達へ教育支援は重要課題だと認識し続けることが求められている。

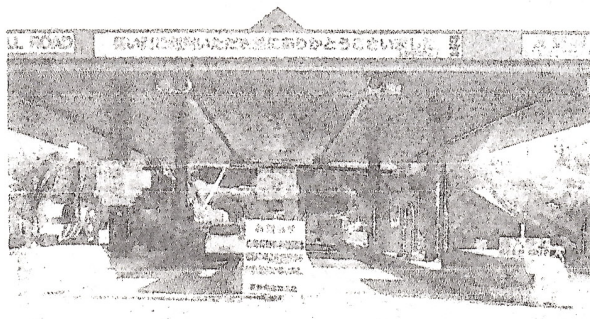
民宿などの既存施設の再活用が求められている

施設以外で食事する泊食分離の取り組みが注目されている。リゾート施設開発・運営支援を手がけるスクウトエが白馬八方エリアにある旅館「白馬丸金旅館」の食堂をリニューアルして「レストラン

白馬八方山吹食堂」の取り組みは全国の情報発信された。今後増々食難民の受け皿を目的に飲食提供施設の整備は進むのだろう。全国で見かける外食店舗も白馬エリアに営業を開始するのは避けられないのだろうが、白馬八方発祥と言われる既存の「民宿」への可能性の模索が大切だ。宿泊をしない食事営業だけの白馬らしい郷土食を提供する「民食」が求められている。

昭和51年に長野農業改良協会が発刊した「つけものの味・ふるさとの味」などで紹介されている地域食材の活用は、郷土の味・伝統の味とも言える家庭の味・手作りの味を提供できれば地域の魅力になるに違いない。地域食材の活用は、地域

農林業を活性化させ、地などの荒廃にも大きな役割を担うと思われている。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



白馬長野有料道路が2月16日から無料開放。観光客の利用増や地域間交流の活発化に期待